


<p>第181回 都市懇サロン レポート</p>	<p>わが国初のライジングボラードの社会実験について</p>		
<p>講師</p>	<p>(公財)国際交通安全学会 「天下の公道」と生活道路に関する研究会 委員 松原 悟朗 氏</p>	<p>開催日</p>	<p>平成26年5月20日(火) 18:00~20:00</p>
<p>講師 プロフィール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(株)国際開発コンサルタンツ 代表取締役社長 2007年7月～</li> <li>・早稲田大学非常勤講師 1999年4月～2004年3月</li> <li>・日本都市計画学会評議員 2008年4月～2012年3月</li> <li>・日本交通計画協会理事 2009年4月～2013年9月</li> <li>・都市計画コンサルタント協会 副会長 2011年4月～</li> </ul>		
<p>お話の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>ライジングボラード (RB) とは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボラードが動力によって自動的に昇降し、必要に応じて自動車の通行を許可したり遮断したりする。</li> <li>・法的位置づけは、道路交通法・道路法の道路付属物・道路占有物。</li> </ul> </li> <li>2. <b>研究会（「天下の公道」と生活道路に関する研究）の目的と活動</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わが国における RB 整備の必要性（①生活道路での交通事故の多発⇒効果的な自動車抑制が必要、②現行の「うま」による交通規制は課題が多い、③今後の超高齢化社会では歩行者・自転車が主要な交通手段となるため、安全快適な歩行者空間整備は喫緊の課題</li> <li>・研究会では、平成24年度に法制度の調査、開発、大学構内での実験、平成25年度法制度の再検討、運用の適応性の検証を得て、以下の社会実験を実施</li> </ul> </li> <li>3. <b>新潟市での社会実験</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが健幸で健やかに暮らせるスマートウエルネスシティの取り組みの一つとして、日本初となるライジングボラードを古町モール6に設置</li> </ul> </li> <li>4. <b>監視カメラによる観測調査</b></li> <li>5. <b>アンケート調査</b></li> <li>6. <b>社会実験の結果（有効性）のまとめ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時の通行について。事前周知の結果問題なく通行できた</li> <li>・車、歩行者、自転車等について、事故等の発生がなかった</li> <li>・踏み倒しなどによる違法通行が当初散見されたが、すぐにほぼ解消</li> <li>・イタズラなどによる不具合が当初見られたが数ヶ月後に減少</li> </ul> </li> </ol>		
<p>意見交換の概要</p>	<p>○ライジングボラード導入の課題は？ ⇒管理を含めたコストは今回一品生産であるが普及していければ。 ⇒法的には現行法で対応は可能だが、地元警察との協議が必要。警察は車道において物損事故の問題から、堅い構造部のボラード設置を指導。</p> <p>○今後の展開（主な課題）は？ ⇒他の交通条件への適用性 ⇒ボラード周辺の設え、デザイン、本数、高さ、いたずらや壊れない仕様、価格等。 ⇒欧州のような面的な交通規制、通学路などへの適用性のチャレンジ。</p>		
<p>記録者のひとこと</p>	<p>スマートウエルネスシティに向け、本実験がわが国も海外での取り組みに追いつき、技術面で海外に提供できるものとして期待します。          ≪都市懇サロン運営部会委員 菊地建生≫</p>		